

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	金丸（岩崎）和子【論文博士】 （比較文化学専攻 昭和59年3月単位修得退学）	<p>本論文は、東アジア全域に広がる弥勒図像の特質および変容と、それに伴うの造形の諸相について、淵源である西北インドから我が国に及ぶ広範な地域に及ぶ具体的な作例を通して確認するとともに、とりわけ朝鮮半島と我が国の作例を比較しながら、それぞれに地域における弥勒図像の持つ特質を探ろうとするものである。全体は東アジアにおける半跏思惟の菩薩形の弥勒について考察する第1部と、わが国平安時代以降に現れる如来形の弥勒について論じる第2部から構成される。</p> <p>第1部では、中央アジアから東アジアにおいて、半跏思惟像と弥勒信仰の結びつきについて詳細な事例研究から、初期の中国における半跏思惟像は悉達多太子思惟像である可能性が多く、北斉時代ごろに至って弥勒菩薩像として造像されたと考えられ、朝鮮半島における弥勒下生信仰とともに半跏思惟形の弥勒菩薩の隆盛期となり、我が国にも将来されたと推論する。第2部では如来形の弥勒について、下生した弥勒如来が朝鮮半島や日本においても、7世紀には弥勒大仏として造像され、白鳳期以降にその作例が認められ、庶民信仰とともに我が国における弥勒如来の図像として定着すると推察する。</p> <p>第1回審査委員会では、本論文が完成度の高い論文として評価されたものの、複数の単著論文を元に構成されているために、全体として統一の取れた叙述形態が求められたほか、文中に引用された出典書籍および参考文献一覧の表記法の不統一についても指摘があった。</p> <p>第2回審査委員会では、金丸から提出された修正箇所を細かく確認した上、こうした修正を妥当なものと評価するとともに、金丸の今後の研究活動を期待する意見が述べられた。</p> <p>公开发表では論文内容に沿って明快な説明がなされ、引き続き行われた質疑においても、個々の作例について具体的な資料に基づいて満足すべき応答であったと認められた。最終試験では、論文に即して内容を詳述させたほか、本論文がこれから多くの研究領域に新資料として資することが出来るかを審査した。</p> <p>この結果、本審査委員会は本論文が本研究科の博士（学術）Ph.D. in History of Art の学位に相応しいものであると判定した。</p>
論文題目	弥勒の造形の諸相 韓国と日本	
審査委員	（主査） 教授 秋山光文	
	教授 高島元洋	
	教授 古瀬奈津子	
	教授 鷹野光行	
	教授 伊藤美重子	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ ㊟ ・ 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="font-size: 2em;">}</p> <p>本論文で取り扱われる内外の作例について、所蔵者および図版の著作権を有する組織から、掲載許可を取ることが困難なものについては、既に出版された書籍名と図版番号を明記することで補う。</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	